2022年7月3日（日）主日朝礼拝説教

『光によって光を見る』　井上隆晶牧師
詩編119篇129～136節、ヨハネ福音書9章1～7節

❶【神の業がこの人に現われるため】

イエス様たちは通りすがりに、目の見えない人を見かけられました。弟子たちはイエス様に尋ねます。「**この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか、それとも両親ですか。**」（9：2）昔も今も変わらず人間は「誰のせいで病気になった、誰のせいで不幸になった」と不幸の原因探しをしようとします。この責任転嫁という悪い癖は人類が最初に罪を犯した時から現れた症状でした。それに対してイエス様は「**神の業がこの人に現われるためである**」と言われます。「**神の業**」とは何でしょう。ユダヤ人たちが「**神の業を行うために何をしたらよいでしょうか**」（ヨハネ6：28）と尋ねた時、イエス様は「**神がお遣わしになった者（イエス）を信じること、それが神の業である**」とおっしゃいました。つまり人がイエス様を信じるようになることを神の業と言うのです。ここでは病気や障がいを通して、神様がこの人を信仰者にしようとしておられるという意味になります。障子に穴が開けば、向こうの光が入ってきます。それと同じで、病気や障がい、災害や不慮の事故によって人生に穴が開いてしまうことがあります。でもその破れた所からその人の人生の中に神様の光が入って来られるのです。だから私は、未信者の方と話す時、「何か悩んでいることや困っていることはありませんか」と問います。すると人によっては「実は、先生…」と言われると、しめたと思って喜ぶのです。人間は困らなければ神を求めません。

●ある朝、修道院の台所の排水口が詰まって、水が流れなくなりました。その時に、成熟度の低いシスターたちの対応と、成熟度の高い大人のシスターたちの対応とが分かれました。成熟度の低いシスターたちは、「一体誰が最後に使ったんだろう」「何を流したんだろう」「誰が悪い」という犯人探しをしたのです。それに対して、成熟度の高いシスターたちは、「どうしたら水が流れるだろう」「作業してくれるおじさんを呼んで来なければいけない」「特別な器具で詰まっている物を取り出さないといけない」と、問題解決の方に中心を置くことが出来たのです。

なぜ破れたのかを探すより、そこから入って来る神の業を見ることの方が大事なのです。

❷【見えるようになるためには聖霊に照らされること】

こう言ってから、イエス様は地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目に塗られました。イエス様は言葉だけでも癒すことをされましたが、ここでは泥を目に塗られました。それには意味があります。神は泥をこねて最初の人間を創造しましたが、その同じ御手が泥をこねて目に塗ったという事は、新しい創造を意味して

います。しかしそれだけで見えるようになったのではありません。続けて「**シロアムの池に行って洗いなさい**」（7 節）と言われました。これは洗礼を象徴しています。彼は池に行って洗い、見えるようになって帰ってきました。古代教会では洗礼志願者の事を「**光照者**」と呼びました。「聖霊の光に照らされる者」という意味です。私の田舎は長野です。山奥は夜になると真っ暗で何も見えません。いくら 2.0 の視力を持っていても太陽の光がなければ何も見えません。この世の光に照らされてこの世のものが見えるようになるのと同じように、神からの光によって私たちは神的なものが見えるようになるのです。その為には、神の光である聖霊に照らされることが必要です。

●4 世紀のエルサレムのキュリロスはこう書いています。「以前は闇の中にいた人が突然、太陽を見て目に光を受け、それまで見えなかったものをはっきりと見るようになるのと同様に、聖霊を与えられた人の魂は照らされ、彼はそれまで知らなかったものを、人間の力を超えた方法で見るようになるのです。」

聖霊を受けたのに聖書が分からない、神様の事が分からないという人がいます。そういう人は、聖霊という光を受ける時間が足りないのです。暗闇から急に光の中に出た人は最初、まぶしくて目を開けられません。ところが光の中に数十分いれば目は光に慣れ、やがて良く見えるようになります。それと同じように、はっきり見えるようになるためには神の聖霊という光に慣れる必要があります。礼拝に来ることは神に照らされにくることです。聖餐が終わった時、耳が開き、目が開いて「本当にいいたいことが分かり、神が分かる」のは、長い時間照らされたからです。天のものが地の中に入るには時間がかかるのです。神の光が入れば神の国、神ご自身、イエス様自身、罪、救いについて、この世、未来が見えて来ます。見えて来るとどうなるか。恐れがなくなり、確信が出て来ます。恐れは、見えないところから来ます。キリストが小さく無力にしか見えないから不安になるのです。見えるということが大事なのです。だから礼拝を休まない人、祈祷を休まない人は聖霊の光を沢山受けるので、見えるようになるのです。

❸【神キリストに向かって目が開く】

私はこの生まれながらの目の見えない人の癒しは、ただの視覚障碍者が癒された物語を伝えようとしているのではないと思います。イエス様の癒しにはすべて意味があります。聖書はすべての病気の癒しについて書いているのではなく、主に目、耳、口などの感覚器官や足や手などの癒しの話が多いのです。それは神と交わる器官・道具を癒すのが目的だからです。この生まれながらの目の見えない人とは全人類を象徴していると思われます。すべての人は生まれながらにして、神に対する盲人です。善悪知識の実を食べた後、アダムとエバの「**二人の目は開いた**」（創世記 3：7）と書いていますが、神に向かってではなく、この世に向かってでした。しかしこの生まれながらの盲人はキリストに向かって目が開きました。彼は「**主よ、信じます**」（ヨハネ 9：38）といって、イエス様をメシアとして受け

入れ、ひざまずきました。一方、ユダヤ人たちは肉体の目が見えても、キリストに対しては盲人でした。彼らは傲慢だったので癒されなかったのです。
いくら肉体の病や障害が癒されたとしても、キリストに目が開かなければ意味がありません。統一協会（カルト）から脱会しても 9 割の人は神を求めず、教会に来ません。癒される事、見えるようになることは嬉しい事であり、良いことです。しかし見えるようになった目からは、見なくてよい物も入ってきますし、自分の意志で見なくてもよい物を見てしまいます。そして前よりいっそう罪を犯します。ベトサイダの村で盲人を癒した時、イエス様は彼に「**この村に入ってはいけない**」（マルコ 8：22）と警告されました。癒されたのに、自分の村に入るなと言われたのは、見てはいけない物が村の中にあるからです。この世の物を見れば幸せになれるのでしょうか。私たちはこの世を毎日見ていますが、飛び上がるくらいに喜び、幸福を感じているかというと、そうでもありません。この世は善もあれば悪も満ちています。皆さんは神に向かって目が開いた人です。感覚器官を癒してもらったのです。なぜなら、皆さんは完全な愛、完全な平和、完全な美であるキリストを信じるようにされたからです。

●ローマのカタコンベ（地下墓地）の壁画には「**オランス**」という姿勢で祈っている婦人の像が時々見つかります。婦人は天を見つめ、両手を天に上げ、その手のひらは開いています。これはもっとも古いキリスト教のイコン表現の一つです。彼女は母マリアなのか、教会なのか、祈る人の象徴なのか分かりませんが、聖霊を呼び求め、聖霊を待っているのです。嘆願「**エピクレーシス**」と言われます。

私は牧師になる時、躊躇しました。勤まらないし、私など相応しくないと思ったからです。モーセもシナイ山で召命をかたくなに拒否し「**私は口が重く、舌の重い者です**」といいました。そのとき神は「**一体、誰が人間に口を与えたのか。…目を見えるようにし、また見えなくするのか。主なる私ではないか。**」（出エジプト 4：11）と言われました。これを読んで私は牧師になる決断をしました。私は本当なら死んでいたのに、生かされました。何のためか？神の道具になるためです。カルトに行っていたのに救い出されました。何のためか？神に仕えるためです。癒された手を神に伸ばし、癒された目で神を見、生かされた命で神の命を手に入れるためです。
主はこの私を憐れみ、この目を癒してくださいました。私は、この盲人のようにキリストに目が開き、あなたを信じる者にされました。なぜ、私を癒して下さったのか分かりません。ただ憐れんでくださったとしか思えません。「神の業」が私の上に行われたことを感謝をします。当然ではないと思います。どうかその恵みに応えさせてください。これからもこの目があなたを見つめ続けますように。
「聖霊よ、来てください。私を照らし、キリストを明らかに見えるようにしてください。私に清い心を創造してください」と祈りたいと思います。